

早期診断、早期(低侵襲)治療

プロジェクト 関連病院として セントマーガレット病院 **参加**

膵がん — 沈黙の臓器 — 初期の自覚症状がない病気の早期発見

Q. どんな先生が推進しているの？

A. 日本医科大学千葉北総病院(印西市)の

『がん診療センター長 中村 慶春先生』



日本医科大学千葉北総病院 がん診療センター長 中村 慶春副院長は、前任地の茨城県神栖市で同様の膵がん早期診断、早期治療プロジェクトを同地域の急性期基幹病院である神栖済生会病院においても4年前から開始し、地域のかかりつけ医療機関の先生方と共に現在も継続しております。その努力が実り、少しずつ早い段階での膵がんの患者さんが発見され、早期の治療へと結びつける事が出来るようになりました。この経験を生かし、当地(印旛医療圏、八千代市等)においても同プロジェクトを推進し、地域における膵がんの治療成績の向上に努めて参ります。

上記のような素晴らしい実績を有する「日本医科大学千葉総病院」の関連病院として、セントマーガレット病院もプロジェクトを連携して、同様に外来診察をうけられるようになります。膵臓は、肝臓や腎臓と同じように『沈黙の臓器』と呼ばれ、がんが発症しても初期の段階では殆ど自覚症状がないまま進行します。進行すれば手術も行いにくい場所であり、他の臓器へ転移もしやすい膵がんは、治療も困難となります。また、よく聞くがん健診では膵臓は確立された健診がないため、早期発見できる機会が少ないのが現状です。少しでも気になることがありましたら、セントマーガレット病院へご相談くださいませ。